

令和5年度  
泉佐野市立児童発達支援センター  
事業所における自己評価結果表

令和6年4月

泉佐野市立児童発達支援センター  
児童発達支援「木馬園」  
泉佐野市子育て支援課

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 4月30日

事業所名 泉佐野市立児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	43%	・雨天時、危険のないよう廊下の一部に遊びのコーナーを設けるなどスペースを確保しています。 また、泣いたり、気持ちを崩している子どものクールダウンの場を部屋の一角に作る工夫をしています。 ・活動時、ロッカーを移動するなど広く使えるよう工夫しています。	・指導訓練室等部屋の広さは基準面積をクリアしていますが、子どもの様子や状況により、部屋の使い方を工夫したり、活動によっては遊戯室を譲り合うなど連携しながら取り組んでいます。これからも安全面に配慮して必要な環境を整えていきます。
	2	職員の配置数は適切である	68%	32%	・子どもの状況によりじっくり関わりたい時には、フリー保育士や訓練士などが応援に入り、様々な職種の職員が協力できるような声を掛け合っています。	・基準を上回る職員数を配置していますが、適切な支援が行えるよう、引き続き必要に応じて担任以外の職員も療育に入るなど連携を図ります。 ・令和6年度より常勤のSTを配置し、療育内容の充実を図ります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	46%	54%		・移転・建替計画がある中で、バリアフリー化に向けた大規模な施設改修は困難ですが、訓練士の助言や保育士のアイデアにより、ソフト面に対応するなど可能な限り環境の工夫に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	70%	30%	・子どもの興味に沿った遊びを準備するなど、より良い環境となるよう努めています。 ・療育開始前及び療育終了後は職員が責任をもって掃除や玩具の整理等を行っています。	・施設点検を定期的に行い、子どもが安心・安全に生活できるよう努めます。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	76%	24%	・前半期、後半期と業務を振り返る機会をもち、多職種間でも共有しながら次へつなげるよう意識しています。 ・個別支援会議やカリキュラム検討会議を開催しています。	・必要事項は毎朝のミーティングで共有していますが、引き続き、職員会議や学習会などを通じ、共有機会を確保していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・保護者向け事業所評価を毎年実施しています。 ・個別支援会議の中で保護者のニーズを聞いたり、日々の中でもコミュニケーションを図っており、話し合いをしたことは意識して取り組んでいくようにしています。 ・毎年保護者アンケートを実施しています。	・保護者等からの事業所評価、アンケート、保護者の思いやニーズなどについて、会議などで共有しながら子どもにとっての最善を検討したうえで、困難な部分は施設側の考えを明確に伝え、理解につながるよう誠意をもって対応していきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容をホームページで公開します。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		・第三者による外部評価は実施できていないため、今後、第三者評価制度導入について検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	97%	3%	・学習会やセンター主催の研修会を実施しています。 ・研修内容について今の課題に合っているか精査しています。 ・園内で各研修会の報告の機会を持っています。	・様々な研修で学びを深め、療育に活かしていけるよう、研修内容や実施方法を工夫し、職員の資質向上に努めます。
適切な支援の	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	97%	3%	・個別支援計画をよりわかりやすいものに、また次につながるものにしていけるよう見直しました。 ・発達検査の結果や個別訓練の様子等も含め作成し、保護者と共有しています。	・計画が子どもへの共通理解に基づいたものとなるよう、職員間の連携を大切にしていきます。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		・令和6年度より個別支援計画の形式を変更し、具体的な支援内容と達成状況が保護者にもわかりやすいものとなるよう改善します。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	95%	5%	・計画内容に沿って課題にしっかり取り組み、ステップアップしていくことを意識しています。 ・個別支援会議で確認し、支援しています。	・支援計画をどう行っていくのかをより具体的に考えられるよう、日誌やカリキュラムの形式を変更しました。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	97%	3%	・個別支援会議や毎月のカリキュラム検討会議で状況把握や課題分析を行っています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	92%	8%		・振り返りと立案を新形式の日報を活用しながら行い、子どもの発達と活動の見通しを考えた内容となるようにしていきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・保育と個別訓練が連携できるよう意識しています。 ・毎月のカリキュラム会議で検討し、計画に反映させています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	92%	8%	・療育の流れなどを話し、状況に合わせて臨機応変に対応できるようにしています。 ・情報伝達、共有を意識し、毎朝のミーティングで確認しています。	・グループ内、グループ同士で打ち合わせやサポートができるよう、時間の使い方の工夫を意識していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	81%	19%	・雇用形態により勤務時間が異なるため、終了後にできない場合は翌日の療育開始前に共有・確認しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	95%	5%		・記録を通して課題を職員間で共有し、次の活動や支援について見直しをもって取り組めるよう話し合っていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	・可能な限り関わっている担当者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	95%	5%	・母子保健担当課、子育て支援課、教育委員会等の関係機関と連携しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・保健師と連携を密にとっています。 ・医療的な情報共有は病院からのサマリーで共有しています。 ・必要に応じてケース会議を行っています。 ・地域から相談があった場合は、医療的ケア児等コーディネーターが対応しています。 ・医療的ケア児支援の協議の場で関係機関と情報共有しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	97%	3%	・必要に応じて、意見書などを発行してもらっています。 ・医療的な情報共有は病院からのサマリーで共有しています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・書面による引継ぎや状況によっては対面で情報共有しています。 ・必要に応じて訓練士の巡回を行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・書面と対面にて保育士、訓練士が引継ぎを行っています。 ・訓練士による巡回訪問も行っていきます。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	81%	19%	・市内の児童発達支援事業所との連絡会を開催し、講師を招いて研修を受ける機会を設けています。 ・近畿肢体不自由児連絡協議会に加盟しており、他施設との情報交換の場や研修に参加しています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	・公立認定こども園との交流を行っています。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	76%	24%	・自立支援協議会には相談支援専門員が参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	97%	3%	・個別訓練の中で意識して行っています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	86%	14%	・個別訓練や親子保育のを通じて保護者等に対する家族支援を行っています。	・子育て教室で様々な内容を検討していきます。 ・ペアレント・プログラム等の実施を検討していきます。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	95%	5%	・担当者より、わかりやすく説明できるよう心がけています。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	・個人懇談により、支援内容を保護者とともに確認し、共通理解となるよう心がけています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	97%	3%	・自分自身で答えの出ない時は職員間で相談し、保護者の悩みや相談に応じるよう努めています。 ・サポートブックを活用しながら関わっています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	97%	3%	・保護者会の担当職員を中心に関わっています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	97%	3%	・内容にもよりますが、できる限り相談を受けたその日のうちに職員間で相談し、適切に対応するよう努めています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	97%	3%	・定期的なおたよりを発行するだけでなく、随時発信しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43%	57%		・現状でどのようなことができるかを検討していきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	・感染症やAEDの扱いについては年度始めに看護師による研修を実施しています。 ・地震発生時の保護者との引き渡し訓練などを実施しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・毎月様々な災害に備えた訓練を行っています。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	・看護師が一覧表を配付し、共有しています。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%	0%	医師の指示所に基づき献立を作成し、複数のチェック体制をとり提供しています。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	・ヒヤリハットの記録を会議で共有しています。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	・全職員対象の研修を実施し、研修で学んだことを心に留めながら療育に取り組んでいます。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	84%	16%	・職員が十分理解し、保護者へ説明できるよう研修を実施しています。	・身体拘束等の指針に基づき対応します。 ・年度初めに全職員で研修を実施し、共通理解を深めます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。